

グラウンドワークとは・・・・・・・・

市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたもぜひ活動にご参加ください。
(文中グラウンドワークをGWと表記することがあります。)



第7回 明日への環境賞

～明日への環境賞～

「明日への環境賞」は、朝日新聞社が創刊120周年を記念して、環境保全の多様な試みを顕彰する目的で創設したものです。

地球温暖化防止から家庭のごみ減らしまで幅広い分野を対象とし、「先見性」「モデル性」「継続性」に富む実践活動を表彰します。

この賞が環境保全に対する一般の関心と理解を深め、実践活動の一層の広がりやに役立つことを願っています。朝日新聞社の資料より

特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島殿

富士山の豊かな水系に位置する三島を幅広い市民の力を束ねることによって長期間にわたる環境悪化から蘇らせ新たな水環境の創造に成功されましたその業績をたたえ本賞を贈ります

～第7回「明日への環境賞」受賞～

このたび、グラウンドワーク三島は、朝日新聞社主催の環境分野で優れた活動をしている団体などを顕彰する第7回「明日への環境賞」を受賞した。贈呈式は4月21日、東京都中央区の朝日新聞東京本社で行われ、GW三島からは約50名が出席し受賞を祝った。

正賞の盾は、豊かな水に恵まれ、微妙なバランスの上に成り立つ地球をイメージしたもの。(富山ガラス造形研究所主任教授・渋谷良治氏作)

その他の受賞者は、知床財団(北海道)、矢作川漁業協同組合(愛知県)、宍道湖・中海汽水湖研究所(島根県)、農と自然の研究所(福岡県)の4団体。



第7回 明日への環境賞

代表して受賞した、中川和朗さんと渡辺豊博事務局長



～狩野川カヌー体験～

5月3日、リバー・インストラクター養成講座の現地研修が、伊豆の国市・狩野川千歳橋付近で行われた。

講座では「水の都・三島」を流れる川にかかわる生活文化や水辺環境などについて幅広く学習。(修了式5/21)今回は、現場で楽しみながら体感することを目的として、カヌーで川を横切ったり遊んだりした。



～GW三島共同企画の

スケッチツアー～

3月31日、GW三島とクラブツーリズムの共同企画による、「三島大社スケッチバスツアー」が行われ、首都圏から33名が参加した。

午前中は源兵衛川などを回りながら、GW三島が行政と協働で取り組んだ川の再生活動の話聞き、午後は三島大社の満開の「桜」を、思い思いの場所でスケッチした。



～「みどり野ふれあいの園」10周年～

4月16日、三島市東壱町田の手づくり公園「みどり野ふれあいの園」が開園10周年を迎えた。開園当初から支援をしているGW三島と、森昭夫さんを中心とした子供たちを含む住民が、ツルバラの記念植樹等を行い10周年を祝った。

ここは、平成7年(1995)当時からGW三島が仲介役となり、住民を中心に手がけた公園。また敷地を管理する市が水道を敷設し、企業が花壇造成や用土提供に協力した。

「水の都・三島」にぎわい再生シンポジウム

GW三島は3月19日、Via701で「水の都・三島にぎわい再生シンポジウム」(市民活動団体等支援総合事業)を開催した。

グラウンドワークの発祥の地、イギリスへの視察報告の後、昨秋10月からGW三島の会員が手分けして調査研修を行った「まちづくり先進地」の3事例の報告を行った。

これらの報告では先進地からのノウハウや、三島のにぎわい再生へ向けての共通点が指摘されていた。

続いて、「水の都・三島にぎわい再生の処方箋とは!」をテーマにパネルディスカッションに入った。パネリストに大通り商店街の柳川武雄会長、三島TMOの原知信、渡辺研二両名を迎え、渡辺豊博GW三島事務局長の軽快な進行で、参加者約50名を巻き込んだ熱い討論が行われた。



[事例報告 1]

(視察者：小松幸子・清水純子)

東北新幹線八戸駅開業に向けて行った環境対応型屋台村で、まちづくりを進めた青森県八戸市。蔵を活かしたまちづくりの岩手県江刺市。



[事例報告 2]

(視察者：城所徂帝・村上茂之)

かつて栄えた昭和30年代の街並みを再生し、まちづくりを進める大分県豊後高田市。会員制農村民泊の先進地で同県の安心院町。



[事例発表 3]

(視察者：栗田悦子・手塚雅恵)

江戸時代に舟運に利用された川と川沿いに建て並ぶ多くの蔵を中心に、まちづくりを進める栃木県栃木市。レンガとガーデン構想のまちづくり埼玉県深谷市を紹介した。

環境コミュニティービジネス「せせらぎシニア元気工房」ゲンキに活躍中!



平成15年に経済産業省の事業である「環境コミュニティービジネス」が始まり、間伐材や廃材を利用して、もろ箱や花器などの木工製品を生み出していく「せせらぎシニア元気工房」が忙しい。得意技を活かせる場として、退職後の世代に関心が高まってきた。古いりヤカーで作った「うみやあもん屋台」は話題をよび、イベント先で活躍中である。



また、「せせらぎシニア元気工房そばづくり隊」が発足。箱根西麓の休耕畑を利用して収穫した三島産のそば粉を使った「三島そば」も今年3月に初披露となった。さらにさまざまな付加価値をつけた取り組みを今後も展開していく。

イベントですっかり
お馴染みになった
「うみやあもん屋台」

すべて手づくり。楽しみながら
も一生懸命。そばづく
り隊のメンバー

「せせらぎシニア元気工房」活動予定

- 三島梅花藻の里で夏の花の植え付けと挿し木 (6月)
- 「水と虫のフェスティバル」にうみやあもん屋台 (6/3)
- 「落花生のポット苗移植と畑の草刈り」 (6/18)
- 「せせらぎシニア元気工房」紹介チラシ (7月)
- 早稲田大学交流実習プランターへ植え込み (7/1~2)
- 秋の花の育苗作業
- そばの種まきの事前準備 (8/20)
- そばの種まき (8/26.27)
- 屋台・フリーマーケットそば打ちイベント (11/3)
- そばの収穫作業～脱穀製粉作業 (12/3.10.17)
- うみやあもん屋台での販売会 (2007 2/12)

<屋台で売っているオリジナルグッズ>

- もろ箱 (1,000円)
- しゃもじ・スプーンなど(各100円)
- 靴べら (300円)
- せせらぎバッジ (200円)
- その他日用雑貨品など



<グラウンドワーク三島の活動紹介書籍>

- 「清流の街がよみがえった」地域力を結集 グラウンドワーク三島の挑戦
グラウンドワークのノウハウを網羅した日本初のマニュアル本
- 「パッションで前進」グラウンドワーク三島からパートナーシップの提案
- 「アクションで大展開」グラウンドワーク三島のパートナーシップ構築のノウハウ
NPO法人グラウンドワーク三島主催：「2002 全国グラウンドワークサミット」報告書

* 上記お問い合わせは事務局へ TEL055-983-0136

メダカ 2000 匹救出 三島南高ビオトープ埋め立て



平成 15 年(2003)秋に完成した静岡県立三島南高の学校ビオトープが、グラウンドの拡張工事のため埋め立てられることになった。

ビオトープの池には、加須屋真さん(日本蜻蛉学会会員・GW 三島専門アドバイザー)が放流した約 40 匹のメダカが数千匹に繁殖し生息していた。

メダカは環境省のレッドデータブックで絶滅危惧 類に属する貴重な生物である。同校のビオトープが成育に適した環境だっただけに、埋め立ては非常に残念である。安住の地を奪われてしまうメダカを何とか救出しようと、4 月 1 日救出作戦が繰り広げられた。学校関係者、地域住民約 70 人が参加し、半日がかりで作業を終え、約 2000 匹を救出した。メダカは同校で飼育されるほか函南さくら保育園のビオトープにも放たれた。

このビオトープは、同校サイエンス部の生徒たちが GW 三島に相談し勉強会やワークショップを重ねて構想を練り、生徒、教員、PTA 同窓会、地元企業、地域住民が汗を流して建設したかけがえのない施設である。その努力と汗の結晶が埋め立てられてしまうのは不本意だが、同校では再整備を検討中とのことで期待できる。

GW三島 体験学習へようこそ！ 早稲田大学生 50 余名参加



4 月 23 日「NPO 実践論」の実習のために早稲田大学の学生等 53 名が三島を訪れた。柿田川 長伏小ビオトープ みどり野ふれあいの園 ほたるの里 源兵衛川水の散歩道 水の苑緑地 三島梅花藻の里を視察し、NPO 最前線の現状把握と課題認識を深めた。また、当日案内役だった渡辺豊博事務局長と小松幸子理事、越沼正スタッフ、佐伯忠夫スタッフ等との情報交換と人的交流が図られた。

体験学習は勿論、昼食のうなぎ弁当も大好評だった。

Smile スマイル

きどころ 城所 ゆきただ 恒帝さん



三島の下駄屋『みよし屋』の 4 人兄弟長男として生まれた城所さん。「恒帝」という難しい名前も、托鉢にきた妙法華寺のお坊さんにつけてもらったそうだ。会社勤めをしていた頃は、家と職場の往復の明け暮れだったが、いつかは生まれ育った三島、好きな三島のために、働きたいという思いを持っていた。

定年間近の時に、「ふるさとガイド養成講座」に応募し、ガイド 2 期生として活動を始めた。「もともと世話焼き好き」と話す城所さんは現在、「三島市ふるさとガイドの会」会長。

また、平成 13 年(2001)に GW 三島が手がけた「三島アメニティ大百科」の編集に参加したのを契機に、今も GW 三島の事務局へ立ち寄り、活動の手助けをしてくれている。

「GW 三島の活動は、年々広がりを見せている。活動を支えるためには手足となって働く多くの人が必要だ。人数が多ければ多いほど組織も活性化していくと思う。現在、展開中の「エコリパー・インストラクター養成講座」では、GW 三島を支援する人たちが積極的に事務局を手伝うといういい雰囲気も育っている。自分も空時間があれば、少しでも活動のお手伝い出来るよう心がけていきたい。ボランティアを楽しみ、ボランティアできる自分は幸せと感じる生き方が一番いいね。」

いつも冗談を言って周りを笑わせている城所さんの別の一面を発見した取材となった。

松毛川再生へ 「第 2 の源兵衛川」をめざして

松毛川は狩野川流域に唯一残された三日月形の止水域で、多くの動植物が生息する自然の宝庫だ。しかし平成 13 年(2001)頃からホテイアオイが繁殖し生物が急減、枯れたホテイアオイがヘドロとして沈殿し水質悪化が進んだ。GW 三島は平成 15 年(2003)から松毛川再生支援に取り組み、ホテイアオイの除去作業や生態系の調査を行った。調査の結果、鳥類(120 種 56 種)やトンボ(10 種 2 種)の急減がみられたが、オオダカなどの猛禽類やカワセミ、メダカの生息も確認された。川沿いにはタブ、ムク、エノキを中心とした貴重な河畔林が残っていることが分かった。

GW 三島は、ワークショップやセミナーを通して再生に向けた事業化の基本構成を練り、以下の 3 点を発案した。

ヘドロを浚渫、水質改善と遊水機能の強化

河畔林の幅を広げる(3~5m 30m)

環境教育の場にする散策路作り

今後は、国、県の補助事業を検討し再生計画を立て、平成 19 年度(2007)から事業化を目指すと共に、維持管理にあたる地域住民主体の組織作りも図っていく。

「三島梅花藻の里」に釣瓶井戸

夫婦水車リニューアル



3 月 5 日、南本町の「三島梅花藻の里」でむきだしになっていた陶製の井戸に湧水の復活の願いを込め「遊水匠の会」が釣瓶井戸を製作した。高さ 2.5m の杉皮葺きの屋根、陶器を囲う約 1m の木枠、縄に桶をつけた釣瓶、竹を連ねたふたなど。また、当日湧水の復活を祈願する「水乞いの式」の神事を行い井戸の完成を祝った。

平成 11 年(1999)作成の水車 1 号、2 号基をリニューアル。3 月 26 日「三島ゆうすい会」と「遊水匠の会」の皆さんが、宮さんの川のの水車の取替え、整備、水時計のペンキ塗り替えを行った。

満開の桜のもと 4 月 2 日には「三島ゆうすい会」と泉町町内会の皆さんが夫婦水車のお披露目を行い、絶えることのない富士山の湧き水と、仲むつまじく回る夫婦水車に、末永く市民に安らぎを与えるよう祈願した。町内会長も「宮さんの川に、昔からの原風景が復活したことがうれしい」と語った。



GW三島活動記録 2006年2月28日-2006年5月28日

月	日	項目	内容	実施場所	参加者
2	28	松毛川自然再生	事業化検討委員会	三島市役所大社町別館	7名
3	1	松毛川自然再生	ワークショップ	御園公民館	15名
3	3	事務局	理事・コアスタッフ会議	Via701	4名
3	4	鏡池	定例整備作業	鏡池ミニ公園	6名
3	5	エコスタディーツアー	住宅街に湧き出る清水めぐり体験	三島市内	21名
3	7	松毛川自然再生	ワークショップ	御園公民館	10名
3	8	リバー・インストラクター	三島の川の水生植物たち	Via701	39名
3	13	松毛川自然再生	専門委員会	Via701	10名
3	17	リバー・インストラクター	三島の歴史と文学	三島市民活動センター	36名
3	17	リバー・インストラクター	三島の川のメカニズム	Via701	34名
3	18	境川・清住緑地	定例整備作業	境川・清住緑地	15名
3	19	シニア工房	屋台販売会三島測候所保存署名運動	Via701エントランス	5名
3	19	地域再生計画	水の都・三島にぎわい再生シンポジウム	Via701	30名
3	22	リバー・インストラクター	三島の川の魚たち	Via701	40名
3	26	エコスタディーツアー	古都ふるさと三島の文学と歴史の道の散策	三島市内	32名
3	26	シニア工房	そば打ち交流会と次年度の打ち合わせ	Via701	20名
3	29	リバー・インストラクター	三島の川の野鳥 滝道雄講師	Via701	36名
3	31	エコスタディーツアー	「水鏡に映える桃色の宴・三嶋大社神池と桜を描く」	三嶋大社など	33名
4	1	鏡池	定例整備作業	鏡池ミニ公園	10名
4	1	三島南高校ピオトープ	メダカ救出大作戦	三島南高校ピオトープ	100名
4	4	視察研修	太陽コンサルタンツ新人研修	三島市内	7名
4	5	視察研修	太陽コンサルタンツ新人研修	三島市内	7名
4	7	スタッフ会議		Via701バックヤード	16名
4	9	三島梅花藻の里	定例作業	三島梅花藻の里	5名
4	9	シニア工房他	お花見	悠遊工房ひろかわ	20名
4	9	源兵衛川を愛する会	定例作業	源兵衛川	10名
4	10	エコ・インストラクター	第1回フォローアップ会議	Via701ホール	7名
4	10	境川・清住緑地	総会日時決定、H17・18年度事業の検討など	Via701バックヤード	7名
4	12	リバー・インストラクター	人の心をつかむ解説のしかた	Via701	33名
4	16	みどり野ふれあいの園	10周年記念式典	みどり野ふれあいの園	50名
4	16	境川・清住緑地	定例整備作業	境川・清住緑地	中止
4	17	リバー・インストラクター	実地研修「狩野川の森を学ぶ」	松毛川周辺	27名
4	17	エコ・インストラクター	第2回フォローアップ(インストマニュアル作成)	Via701	11名
4	18	そばつくり隊	耕作作業	三ツ谷地区そば畑	2名
4	21	表彰	朝日新聞社「第7回明日への環境賞」贈呈式・祝賀会	浜離宮朝日ホール	40名
4	22	環境コミュニティビジネス	平成18年度活動打ち合わせ	Via701ホール	10名
4	23	リバー・インストラクター	実地研修「富士山エコツアー体験」	西湖、西白塚	31名
4	23	視察	実践活動現場見学(早稲田大学NPO実践論)	三島市内、Via701	60名
4	24	エコ・インストラクター	第3回フォローアップ会議	Via701	7名
4	26	リバー・インストラクター	海から見た狩野川	Via701	20名
4	27	境川・清住緑地愛護会	運営委員会	Via701バックヤード	6名
5	3	リバー・インストラクター	実地研修「狩野川カヌー体験」	千歳橋(伊豆の国市)	20名
5	6	鏡池作業	定例作業	鏡池ミニ公園	10名
5	8	スタッフ会議	議題:腰切不動尊大祭、通常総会ほか	Via701	14名
5	12	境川・清住緑地愛護会	平成18年度総会・杉山恵一先生講演会	西地区コミュニティセンター	30名
5	14	三島梅花藻の里	定例作業	三島梅花藻の里	3名
5	14	リバー・インストラクター	実地研修「セーリング体験」	静浦漁港出航	10名
5	15	エコ・インストラクター	第4回フォローアップ会議	Via701	12名
5	15	ほたる初観察	水の苑緑地・下源兵衛橋にて初観察	源兵衛川	
5	20	境川・清住緑地	定例整備作業、代かき	境川・清住緑地	15名
5	21	長伏小学校ピオトープ	ピオトープリニューアル再生整備事業	長伏小学校	10名
5	21	リバー・インストラクター	修了式	Via701	30名
5	28	腰切不動尊	大祭	腰切不動尊	300名
5	28	環境出前講座	水遊び・水辺子ども探検隊	源兵衛川	41名

住宅街に湧き出る清水めぐり体験

快晴の3月5日、講師と共に半日ばかりで湧き水を巡るエコ・スタディー・ツアーを開催した。当日は21名が参加。

GW三島スタッフ越沼正さんの案内のもと、講師には、三島ゆうすい会の大村皖伸さん・宇水勉さんと、雷井戸に詳しい露木信正さんを迎え、各湧水地ごとの説明をした。

参加者の感想には、「三島に住んでいる人がうらやましい」、「30年近く三島に住んでいるがこんなに素晴らしい自然が保たれていることにビックリ!」など、普段気付かない自然に気付かせてもらった貴重な体験だったと、大好評に終わった。



通常総会のお知らせ

日時 6月4日(日)

通常総会 14:30~15:20

討論会 15:30~18:00

交流会 18:20~20:30

場所 Via701 1階ホール
(三島市本町7-30)

内容

討論会スペシャルゲスト

基調講演: 進士 五十八氏

意見交換: 霜田 正明氏

エコ・インストラクターフォローアップの活動状況

1月9日に開講し、計10回の講座を実施したエコ・インストラクター養成講座。2月26日に修了式を終えたが、参加メンバーからフォローアップ研修実施の要請もあり、現在もワークショップ形式で推進している。ワークショップの内容は、インストラクション(視察者案内)時に説明する手順、内容のマニュアル作成と実地研修を中心に行っている。養成講座参加者の内約半数が、各週月曜日に集まり、7月以降予定されている視察者及び環境教育出前講座等でインストラクション出来る事を当面の目標として、自主開催形式で取り組んでいる。

並行して開催されていたリバー・インストラクター養成講座も、5月21日に修了し、エコ・インストラクターフォローアップグループに合流した。これによりGW三島が、これから計画している多くの視察受け入れ時や環境教育活動(環境教育出前講座)開催時等で、重要な役割を果たす多くの人材が、着実に養成できつつある。

視察に訪れたみなさん H18.3.5 H18.5.28

月	日	団体名	人数	住所
3	5	エコスタディーツアー 「住宅街に湧き出る湧水めぐり体験」	25	静岡県
3	31	エコスタディーツアー 「水鏡に映える桃色の宴・三嶋大社神池と桜を描く」	33	東京都
4	3	国際耕種株式会社	5	シリア国
4	23	早稲田大学NPO実践論	60	東京都
5	8	日立市議会日立市政クラブ	3	茨城県
5	20	循環型社会形成共同研究チーム	10	埼玉県
5	28	阿久和北部連合自治会	22	神奈川県

グラウンドワーク三島 ボランティアニュース30号編集室

川崎徳子 岸野和子 城所祖帝 小松幸子 斎藤彩子 坂井良重 山崎多紀子 GW三島事務局(50音順)